

教育学部

本学部は多様な専門領域の教員によって構成されています。それは、小・中学校の各教科に直接関係する領域のほか、教育学、教育心理学、幼児教育、特別支援教育、臨床心理学の各領域にわたっています。ここに挙げたのはそのうちのごく一部です。これ以外をお望みならお知らせください。出張講義は大学の授業のほんの「さわり」でしかありませんが、「学問」って多様で、ホントは楽しいものだ、ワクワクするものだということがお分かりいただけたと思います。

教育学部

講義番号	教員氏名	講義テーマ
1	露口 健司	優れたリーダーになるにはどうすればよい？
2	白松 賢	チームワークビルディングやファシリテーションによる人間関係づくり
3	相模 健人	話の聞き方 -カウンセリング入門-
4	富田 英司	「主体的・対話的で深い学び」の実現に欠かせない「遊び」としての問題解決
5	青井 倫子	見えない教育 ～保育の内容・方法を知る～
6	浅川 淳司	乳幼児の発達の不思議
7	信原 孝司	こころと対話するー自分を知る、相手を知るー
8	清田 朗裕	五十音図を通して考える日本語の歴史
9	小助川 元太	異本で読む『平家物語』
10	東 賢司	漢字の成り立ちと発達
11	鷲原 進	アメリカの高校生は社会をどのように学んでいるのか
12	張 貴民	学校はなぜそこにあるのか？ー施設立地論を考えようー
13	中曾 久雄	安保法制を考える
14	川瀬 久美子	地理学から見た自然災害と防災
15	川瀬 久美子	遠くの子とあなたのつながりーグローバル時代の地域問題ー
16	井上 昌善	先生の魅力とは何か！？ー社会科教育や主権者教育の教材・授業づくりから考えよう！ー
17	安部 利之	パズルと数学
18	吉村 直道	「深い学び」を目指した数学学習
19	佐野 栄	地球の誕生とその進化
20	佐野 栄	ミネラルウォーターの科学
21	向 平和	科学の方法と理系職業の現状
22	中本 剛	様々な電磁誘導を体験・理解しよう！
23	井上 洋一	音楽デザイン入門 ～創って楽しむ～
24	福井 一真	「つくりながら考える」造形プロセスを体験しよう
25	秋山 敏行	「遊び」と「学び」を考えよう
26	佐々木 昌夫	現代美術入門 -「これ何？」を楽しむ-
27	屋宜 久美子	絵画と材料
28	上原 真依	名画の秘密に迫る
29	石井 浩一	スポーツ文化について学び、考えよう
30	田中 雅人	動きを伝える～ことばとイメージ～
31	日野 克博	スポーツから豊かな社会を！ -スポーツの魅力再発見-
32	糸岡 夕里	魅力的な体育授業を実現できる教師とは？
33	上田 敏子	心の健康とは？
34	藤田 昌子	ともに生きる -私たちの暮らしと福祉-
35	藤田 昌子	自分と仲間の働く権利を守る
36	岡本 威明	化学マジック実験 -ヨウ素時計反応編-
37	眞鍋 郁代	繊維の性質を知る学習「羊毛の性質を利用してフェルトボールを作ろう」
38	竹下 浩子	持続可能な社会と消費生活
39	池野 修	英語の音をマスターしようー「英語耳」「英語口」のトレーニング
40	秋山 正宏	言語を知る、そしてひとのこころを知る
41	荻田 知則	ようこそHybridian の世界へ！
42	檜木 暢子	重い障害を生きるということ -全身性障害の高校生の進路-
43	中野 広輔	特別支援教育は“特別”じゃない？ 障がい理解から自分理解へ
44	教育学部教員 (教育学部入試委員)	教育学部の教員と相談して決めるテーマ

No. 1

〔講義テーマ〕／担当教員 学校経営学 露口 健司		講義時間／受講人数	
優れたリーダーになるにはどうすればよいか？		講義時間	50分
		受講人数	上限100人
あなたはこれまでの学校生活の中で、リーダーの役割を担ったことがあると思います。その場面において、あなたはどのようなタイプのリーダーでしたか。何を目標としていましたか。メンバーはあなたに魅力を感じていましたか。集団やチームの成果はありましたか。この講座では、あなたのリーダー経験を振り返るとともに、優れたリーダーとは一体何なのかを、一緒に考えていきます。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、パソコン（パワーポイント）			

No. 2

〔講義テーマ〕／白松 賢		講義時間／受講人数	
チームワークビルディングやファシリテーションによる人間関係づくり		講義時間	50分
		受講人数	上限30人（5名以上）
教育の世界では、学校や学級における人間関係づくりが重視される傾向にある。他者との出会いや関係はよい面として自己の世界を広げたり、心の安定につながったりする。しかし、人間関係は、不安定で流動的なものであり、他者を傷つけたり、苦しめたりする。学校で求められる人間関係とは、課題を与えられた時には好き嫌いやあうあわないに関わらず、協働的に課題解決や課題達成を行う関係が求められている。この関係づくりをワークショップを通じて理解する。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、グループワークができる机等			

No. 3

〔講義テーマ〕／担当教員 臨床心理学（ブリーフセラピー） 相模 健人		講義時間／受講人数	
話の聞き方 -カウンセリング入門-		講義時間	50分
		受講人数	上限50人
カウンセリングについて簡単に概観し、話の聞き方について講義を行います。カウンセリングは人間関係と言語的交流を主とした心理的援助です。その際に重要になるのが話の聞き方となります。本講義ではビデオをもとにカウンセリングで話の聞き方として重要な姿勢である「知らない」という姿勢を紹介します。時間があればワークを行い、話を聞くときの基本的な姿勢を学習し、高校生が日常的に応用できるよう講義を行います。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、スピーカー			

No. 4

〔講義テーマ〕／担当教員 教育心理学 富田 英司		講義時間／受講人数	
授業デザイン入門「主体的・対話的で深い学び」を実現する概念型探究		講義時間	必要に応じて
		受講人数	制限なし
いま世界中のインターナショナルスクールで「概念型探究」という教え方の導入が進められています。この教え方は、複数の具体的な事例を児童生徒が探索し、抽象化された理解を自分たちでつくっていくことを特徴としています。エリートのための教育方法のように聞こえますが、もともと学校での学びを苦手とする児童生徒のために作られた手法です。現在、愛媛大学教育学部ではこの教え方を公立学校で活用するための実践研究を、地域の学校の先生方と進めています。最先端の教育手法を体験してみませんか？			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、グループワークが可能な机、サインペン等の濃いペン			

No. 5

〔講義テーマ〕／担当教員 幼児教育 青井 倫子		講義時間／受講人数	
見えない教育 ～保育の内容・方法を知る～		講義時間	50分
		受講人数	上限40人
皆さんは子どもの頃、保育所や幼稚園でどのように過ごしましたか？「ほとんどの時間を“好きなことをして”“遊んで”過ごした人が多いのではないのでしょうか。そこにはいったいどのような学びがあったのでしょうか。「見えない教育」と言われる、保育所や幼稚園における保育の内容や方法について学んでみましょう。			
□実施校において準備が必要なもの			

No. 6

〔講義テーマ〕／担当教員 幼児心理 浅川 淳司		講義時間／受講人数	
乳幼児の発達の不思議		講義時間	50分
		受講人数	上限40人
人間は時間にともなって身体だけでなく心も変化していきます。発達心理学はそのような心の変化に焦点を当てた学問領域です。本授業では、特に乳幼児期に焦点を当てて乳幼児の認識や社会性がどのように変化していくのかお話ししたいと思います。多くの方が自分が乳児や幼児だった時のことは明確に覚えていないと思いますが、乳幼児には乳幼児の世界があります。乳幼児期の独特の世界の不思議さや面白さに触れてもらえればと思います。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、スピーカー			

No. 7

〔講義テーマ〕／担当教員 臨床心理学（精神分析） 信原 孝司		講義時間／受講人数	
こころと対話する - 自分を知る、相手を知る -		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
人間のこころは不思議なものです。自分のことは自分が一番知っているようでいて、実は一番分かっていないのは自分自身なのかも知れません。 本講義では、こころと対話することを通して、自分を知る、相手を知るヒントを皆さんと一緒に共有したいと考えています。例えば、こころの中の無意識と呼ばれる領域について、夢の世界の分析について理解を深めることで、より良いこころの理解につなげたいと思います。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 8

〔講義テーマ〕／担当教員 国語教育 清田 朗裕		講義時間／受講人数	
五十音図を通して考える日本語の歴史		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
みなさんは、五十音図を知っていますか。五十音図とは、国語の教科書にも掲載されている、日本語のもっとも基本的な音や文字の配列を示す図です。「あいうえお」や「あかさたな」と聞けば、イメージできるのではないのでしょうか。この五十音図は、実は最初から私たちが知っているような図だったわけではなく、日本語の歴史上、さまざまなものが残されています。それでは、どのような図が存在したのでしょうか、また、なぜそのような図ができたのでしょうか。さまざまな五十音図を比べながら、日本語の歴史の一端を探検しましょう。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、紙（ノート可）、筆記用具			

No. 9

〔講義テーマ〕／担当教員 国語教育 小助川 元太		講義時間／受講人数	
異本で読む『平家物語』		講義時間	50分
		受講人数	上限40人
『平家物語』は、古典文学を代表する有名な作品の一つであり、小・中・高の国語教科書にも取り上げられています。その異本の多さについては意外と知られていません。本講義では、『平家物語』の世界をより深く知ってもらうために、異本を用いた有名な場面の比べ読みをして、普段の授業とはまた違った角度から『平家物語』の魅力を知ってもらいたいと思います。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、DVDプレーヤー			

No. 10

〔講義テーマ〕／担当教員 国語教育 東 賢司		講義時間／受講人数	
漢字の成り立ちと発達		講義時間	50分
		受講人数	上限50人
漢字は中国で生まれ育ってきたもじであるが、元々紙に書かれたものではなく、石や金属に刻まれ鋳造されて発達してきた。また、漢字は表意文字と言われるが、現代社会で使われている楷書の漢字を見ただけでは意味が分かるものは少ない。この講義では、どのような変化を経て現代まで続いてきたのか等、具体的に資料を示しながら、漢字の変化の歴史を説明します。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 11

〔講義テーマ〕／担当教員 社会科教育 鷲原 進（おしはら すすむ）		講義時間／受講人数	
アメリカの高校生は社会をどのように学んでいるのか		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
高校生の皆さんは、地理歴史科、公民科を学んでおられると思います。同じ年代のアメリカの高校生も当然、同じような教科あるいは科目を学んでいます。その勉強する内容や勉強の仕方、あるいは現実の社会に対する意識は、皆さんと同じなののでしょうか？ それとも異なるのでしょうか？ そのあたりを、アメリカの高校生が使用している教科書、現地の授業の様子をもとに一緒に考えてみましょう。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 12

〔講義テーマ〕／担当教員 社会科教育 張 貴民		講義時間／受講人数	
学校はなぜそこにあるのか？－施設立地論を考えよう－		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
学校はなぜそこにあるのでしょうか。通学路でこのような問題を考えた生徒はいるかと思えます。生徒にとって身近な学校を例に、分かりやすく施設の立地を説明します。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 13

〔講義テーマ〕／担当教員 社会科教育 中曾 久雄		講義時間／受講人数	
安保法制を考える		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
近年、我が国においては、いわゆる安保法制が大きな政治問題となっています。本講義においては、安保法制について、法的な観点から分析し、安保法制の抱えるメリット・デメリットを考えていきます。			
□実施校において準備が必要なもの			

No. 14

〔講義テーマ〕／担当教員 川瀬 久美子		講義時間／受講人数	
地理学から見た自然災害と防災		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
自分が暮らす土地の自然条件を知っておくことは、そこで発生する自然災害の種類や規模を理解するのにとても大切です。地震災害や気象災害の発生するメカニズムを地理学の視点から解説し、被害を回避したり軽減するために私たちがどのように備えておくかを一緒に考えましょう。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 15

〔講義テーマ〕／担当教員 川瀬 久美子		講義時間／受講人数	
遠くのあの子とあなたのつながり～グローバル時代の地域問題～		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
環境問題や国際紛争、難民問題…世界のあちこちで起こっている地域問題のニュースが、日々、私達の耳に入ってきます。高校地理の学習でも世界の地域問題について学びますが、私達から遠く離れた場所のことを学ぶことには、どんな意味があるのでしょうか？ 知らないよりは知っていた方がいい。でも知っていたところで、何もできない…？ 地球市民の一員として、私達はどのように社会参画していくべきなのか、一緒に考えましょう。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 16

〔講義テーマ〕／担当教員 井上 昌善		講義時間／受講人数	
先生の魅力とは何か！？ ～社会科教育や主権者教育の教材・授業づくりから考えよう！～		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
本講義では、学校の先生の魅力を社会科教育や主権者教育の教材・授業づくりに焦点を当てて考えます。社会事象を教材として加工し、それをふまえた授業づくりを行う際のポイントはどのようなところにあるのでしょうか。このことについて、実際の教材・授業づくりのプロセスの検討を通して理解を深め、先生という専門職にしかできないことについて考えてもらいます。講義の中では、教育学部の大学生の学びの様子についても紹介します。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 17

〔講義テーマ〕／担当教員 数学教育 安部 利之		講義時間／受講人数	
パズルと数学		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
1 から15までの数字を16マスに区切られた正方形に適当に配置し、1つの空白を利用して好きな配置に並べ替えるパズルを「15 パズル」といいます。数字を好き勝手に配置しただけでは、解けないパズルができてしまいます。どのようなときに解けるのかについての判定方法について、群論と呼ばれる数学を用いて解説します。			
□実施校において準備が必要なもの			
カッターまたははさみ（受講生徒数分）			

No. 18

〔講義テーマ〕／担当教員 数学教育学 吉村 直道		講義時間／受講人数	
「深い学び」を目指した数学学習		講義時間	50分
		受講人数	上限50人
基本的に、ご希望のテーマ・単元・方針を聞きながら「深い学び」を目指した数学科の授業を構想・実践します。生徒たちが深く考える学習に取り組むとともに、授業研究・授業改善に資するよう先生方と深い学びのための手立てについての視点の共有を図ります。これまで、教科書の内容では「二次関数のグラフ」「組合せ」「漸化式」「推定・検定」などの出張講義の実績があります。教科書の内容以外でも、日常の中に潜む数理を紹介して課題学習の課題発見につながるものや「データサイエンス入門」としてデータ分析についての出張講義の実績もあります。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクタ、スクリーン ※テーマ・単元に応じて要相談			

No. 19

〔講義テーマ〕／担当教員 理科教育 佐野 栄		講義時間／受講人数	
地球の誕生とその進化		講義時間	50分
		受講人数	50人程度
46億年前に原始太陽系星雲から誕生し現在に至るまでの、地球の形成過程について平易に解説します。創成期の地球環境は、ジャイアントインパクトやマグマオーシャン、核の形成など、過酷な状態でした。その後、大陸地殻が分離し、海ができ、生命が誕生しました。さらに様々な時代の超大陸の離合集散を経て、現在のような地球に進化しました。本授業では、上述のような地球の形成過程について、様々な岩石標本やビデオ、写真等を多用してわかりやすく説明する予定です。なお、具体的な内容に関しては、高等学校側との話し合いにより適宜変更可能です。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、DVDプレーヤー			

No. 20

〔講義テーマ〕／担当教員 理科教育 佐野 栄		講義時間／受講人数	
ミネラルウォーターの科学		講義時間	50分～90分
		受講人数	1クラス以内
現在国内で市販されている様々な銘柄のミネラルウォーターを飲みくらべて、味の違いについて考えます。水の硬度（硬水や軟水）や成分について解説を行い、水の産地とその地質学的な背景に関連性があることや水に含まれている様々なイオンについて学習します。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 21

〔講義テーマ〕／担当教員 理科教育 向 平和		講義時間／受講人数	
科学の方法と理系職業の現状		講義時間	50分
		受講人数	上限40人
「科学的」とはどういうことでしょうか？科学史（生物学を中心）や観察・実験の方法を通じて考えていきたいと思います。また、これからの理系の進路決定においてどのような進路をデザインするべきかを考えてもらえるような内容構成を考えています。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 22

〔講義テーマ〕／担当教員 理科教育 中本 剛		講義時間／受講人数	
様々な電磁誘導を体験・理解しよう！		講義時間	50分
		受講人数	上限40人
磁気と電気が互いに関連する電磁誘導は、様々な特異で面白い現象を見せてくれます。本講義では、学校で学習する、コイルと永久磁石・検流計を使った実験だけでなく、色々な実験を行うことで、電磁誘導への理解を深めることを目的としています。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 23

〔講義テーマ〕／担当教員 音楽教育 井上 洋一		講義時間／受講人数	
音楽デザイン入門 ～創って楽しむ～		講義時間	50～100分
		受講人数	上限40人
「音楽デザイン」とは、音を音楽に構成し、自分らしい音楽を創造し、生活を楽しむ豊かにするための計画、あるいはその行為全体のことです。簡単に言うと「自分らしい音楽をつくって表現し楽しむこと」です。本講義では、パソコンやタブレットPCを使って、短いオリジナル曲を創作し発表します。それぞれの「個性」「感性」を認め合うことを通して「自分らしさ」を発見します。			
□実施校において準備が必要なもの			
Wi-Fiが使える教室 1人1台端末 プロジェクターとスクリーン、または大型モニタ、電子黒板など			

No. 24

〔講義テーマ〕／担当教員 美術教育 福井 一真		講義時間／受講人数	
「つくりながら考える」造形プロセスを体験しよう		講義時間	100分
		受講人数	上限20人
何かつくったりあらわしたりするときには、イメージしたものを順序よくつくっていくなくてはならないと思いませんか？実は、子どもの活動をよく観察していると、最初のイメージを離れ、つくり・つくりかえられている姿をみることができます。つまり、造形活動の中では、イメージは固定化されたものではなく、変容していくものであり、これを「つくりながら考える」造形プロセスと捉え直すことにしました。本講義では、本プロセスを体験するために、爪楊枝を造形素材とした造形活動を実施します。活動を体験することを通して、イメージの変容を前提とした「つくりながら考える」造形プロセスについて考えてみましょう。			
□実施校において準備が必要なもの			
活動するためには十分なスペースが必要となります。プロジェクター・スクリーンも使用します。			

No. 25

〔講義テーマ〕／担当教員 美術教育 秋山 敏行		講義時間／受講人数	
「遊び」と「学び」を考えよう		講義時間	50分
		受講人数	上限25人
<p>「造形遊び」とは小学校で行われる図画工作科の活動のひとつです。一般的に「遊び」とは、「まじめ」や「学び」など対立するものとして理解されがちですが、その本質は様々な他者とかかわり合いながら固定的な考えや状況を拓き、新しい意味や価値としてつくり、つくりかえていくことといえ、決してそれらと対立するものではありません。ここでは実際に「造形遊び」を体験することを通して「遊び」と「学び」の関係について考えるとともに、いわゆる「私らしさ」に関わる多様性、つまり自分と他者との違いにも改めて目を向けてほしいと思います。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、造形活動ができるスペース			

No. 26

〔講義テーマ〕／担当教員 美術教育 佐々木 昌夫		講義時間／受講人数	
現代美術入門ー「これ何？」を楽しむー		講義時間	50分
		受講人数	上限40人
<p>20世紀以後の欧米と日本の現代美術を紹介します。「これでも美術？」と、首をかしげたくなる変な作品を鑑賞して、「これ何？」という感じを、まず力を抜いて楽しんでください。見方を変えれば、奇妙な美術作品も私たちの身近なものになります。一般に難しくよく解らないと言われる現代美術が、社会の動きや私たちのものの見方と、どのようにかかわっているかを考えます。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 27

〔講義テーマ〕／担当教員 屋宜 久美子		講義時間／受講人数	
絵画と材料		講義時間	50分
		受講人数	上限40人
<p>絵画を制作する際、画家は様々な工夫を凝らします。絵の具を手づくりするのもその一つです。本講義では、絵画作品における材料の工夫を紹介します。また土を用いた絵の具づくりと描画体験を通して、絵画の組み立て方や画家の思いに迫ります。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、描画活動ができるスペース			

No. 28

〔講義テーマ〕／担当教員 美術教育 上原 真依		講義時間／受講人数	
名画の秘密に迫る		講義時間	50分
		受講人数	上限40人
<p>有名な絵画作品を観た時、「きれいだけど、どこを見たらいいのかわからない」「絵の内容がよくわからない」「どこがいいのかわからない」と感じたことはありませんか？ 名画は情報の宝庫、少し見方を変えるだけで、たくさんの発見があるでしょう。この授業では、よく知られた西洋の名画の秘密を解き明かす方法や、絵画鑑賞をより楽しくするための見方を学びます。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 29

〔講義テーマ〕／担当教員 保健体育 石井 浩一		講義時間／受講人数	
スポーツ文化について学び、考えよう		講義時間	50分
		受講人数	上限35人
<p>現代のスポーツは、オリンピックやワールドカップから市民マラソンや小学校の運動会に至るまで、政治・経済・教育などを含む私たちの社会生活の様々な側面と関わり合いを持つ大きな文化現象となっています。また、メディアや消費文化との結びつきを通して、その影響力もますます多様化し増大しています。本講義では、スポーツがどのような歴史的・社会的条件のもとで発展してきたのかについて学び、考えてみたいと思います。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			

No. 30

〔講義テーマ〕／担当教員 保健体育 田中 雅人		講義時間／受講人数	
動きを伝える ～ことばとイメージ～		講義時間	50分
		受講人数	上限50人
<p>子どもに動きの仕組みを教えるのは、簡単ではありません。ことばで説明しようとしても、なかなかうまく伝わりません。見本を見せれば、すぐにできる子どもいますが、視覚的な情報がすべてを解決してくれるわけではありません。子どもに限らず、運動情報をどのように伝えるかは、大変重要で難しい問題です。この講義では運動情報の伝達、運動イメージの形成、ことばとイメージなどについて解説します。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 31

〔講義テーマ〕／担当教員 保健体育 日野 克博		講義時間／受講人数	
スポーツから豊かな社会を！－スポーツの魅力再発見－		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
<p>スポーツは、年齢や性別、障がいに関わらず、すべての人々に活力をあたえます。オリンピック・パラリンピックを契機に、スポーツの意義や価値が再認識され、スポーツから豊かな社会を築くことが期待されています。この講義では、新しいスポーツの方向性や「ゆるスポーツ」や「アダプテッドスポーツ（障がい者スポーツ）」などを紹介し、スポーツがもつ価値や教育的可能性について概説します。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 32

〔講義テーマ〕／担当教員 保健体育 糸岡 タリ		講義時間／受講人数	
魅力的な体育授業を実現できる教師とは？		講義時間	50分
		受講人数	上限50人
<p>スポーツ、運動が「できる」と「教える」とは違います。魅力的な体育授業を実現するために教師に求められることは何でしょうか？すべての人が生涯にわたって、スポーツ、運動に親しんでいくためには、体育授業が大きな役割を担っています。そのために何が必要か、実際に運動を通して実践的に学んでいきます。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 33

〔講義テーマ〕／担当教員 保健体育 上田 敏子		講義時間／受講人数	
心の健康とは？		講義時間	50分
		受講人数	上限30人
<p>今日、心の健康に関する様々な問題が様々な世代で生じています。心の健康を増進するためには、自分自身の特性を知ること、またストレスに上手に付き合うことなどが重要です。本講義では、自分自身の特性の理解と様々なストレスマネジメントの方法について学んでいきます。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 34

〔講義テーマ〕／担当教員 家政教育 藤田 昌子		講義時間／受講人数	
ともに生きる－私たちの暮らしと福祉－		講義時間	50分
		受講人数	上限40人程度
<p>福祉とは、well-being、つまり幸せに暮らすことで、特別なことでも、特定の人を対象にしたものでもありません。なぜならば、福祉とは社会に生きるすべての人びとが幸せに暮らすことだからです。生活を学習対象とする家庭科では、福祉の視点はとても重要です。ともに生きる社会の一員として、福祉や身の回りの環境に関心を持ち、今、自分にできることを考えてみませんか。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、パソコン、可能であればスピーカー等音響装置			

No. 35

〔講義テーマ〕／担当教員 家政教育 藤田 昌子		講義時間／受講人数	
自分と仲間の働く権利を守る		講義時間	50分
		受講人数	上限40人程度
<p>「働いたのに給料が支払われなかったり、いきなり仕事を辞めさせられたりしたときに、どうするのか」と尋ねると、高校生からは「面倒くさいし、我慢する」「どうしたらいいかわからない」と言った声がよく聞かれます。本当にこれでいいでしょうか。クイズ形式で働くルールについて学び、自分だけでなく、仲間の働く権利を守るにはどうしたらよいか、考えてみませんか。 ＜ご担当の先生へ＞ 貴校では、アルバイトが許可されているか、許可されている場合は、アルバイトをしている生徒さんの割合を、事前にお知らせください。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、パソコン、可能であればスピーカー等音響装置			

No. 36

〔講義テーマ〕／担当教員 家政教育 岡本 威明		講義時間／受講人数	
化学マジック実験－ヨウ素時計反応編－		講義時間	50分
		受講人数	上限20人
<p>2011年11月、茨城県の理系女子高生らが新たな化学現象を発見し、権威ある米専門誌に論文「死んだBZ反応の復活」が掲載され、世界的な快挙となっています。「BZ反応」とは、酸化還元反応を繰り返すことにより、水溶液の色が赤と青に交互に変わる反応であり、この時間差反応が魅力的なところですが。本実験では、ヨウ素酸塩溶液を用いて、絶妙で神秘的な色の変化を体感して頂きたいと思えます。</p>			
□実施校において準備が必要なもの			
試験管、試験管立て、駒込ピペット、プロジェクター、スクリーン 化学実習室等の使用を希望致し			

No. 37

〔講義テーマ〕／担当教員 家政教育 眞鍋 郁代		講義時間／受講人数	
繊維の性質を知る学習「羊毛の性質を利用してフェルトボールを作ろう」		講義時間	50分
		受講人数	上限25人
数ある天然繊維の中で、羊毛だけが有する特徴としてのフェルト化を学びます。また、環境問題が深刻に議論されていますが、実際問題として、環境問題は私たちにとって身近な問題であると認識されていないのが現実ではないかと思ひます。そこで、天然繊維のリサイクル方法の提案として、また、家庭科および環境教育教材として、フェルトづくりにも挑戦してもらいたいと思ひます。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、実施場所に水道・流しの設備があること			

No. 38

〔講義テーマ〕／担当教員 家政教育 竹下 浩子		講義時間／受講人数	
持続可能な社会と消費生活		講義時間	50分
		受講人数	上限50人
世界で起こっている飢餓や貧困、児童労働の問題は私たちの消費行動と深く結びついています。フェアトレード、フードマイレージ、食品ロスといった生活の面から自分たちの消費行動と世界の問題とのつながりを理解し、よりよい社会のために生きる消費者としての行動について考えます。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 39

〔講義テーマ〕／担当教員 池野修		講義時間／受講人数	
英語の音をマスターしようー「英語耳」「英語口」のトレーニング		講義時間	50分
		受講人数	上限50人
「英語の音作り」の講座です。「周りにある英語表示（McDonald's, Adidas）を発音してみよう」「日本語の文 x 英語のリズム＝？」「English 575」「音声だけで伝わるか？」などの活動を通して、日本語と英語の音の違いに気づき、英語発音能力&英語音声表現力を向上させます。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 40

〔講義テーマ〕／担当教員 英語教育 秋山 正宏		講義時間／受講人数	
言語を知る、そしてひとのこころを知る		講義時間	50分
		受講人数	上限40人
人間にとってあまりにも身近な存在である言語。この言語について少しでも掘り下げて考えれば人間のこころの持つ素晴らしい能力が見えてきます。また外国語である英語についてより良く知ることと母語である日本語についてより良く知ることが出来、同時に日本語についてよりよく知ることと英語についてもより良く知ることが出来ます。みなさんもこの不思議な言語の世界を覗いてみませんか。そして英語や日本語についてより深く知ってみませんか。			
□実施校において準備が必要なもの			
黒板（ホワイトボードでなく）が使えるのが望ましい。			

No. 41

〔講義テーマ〕／担当教員 特別支援教育 荻田 知則		講義時間／受講人数	
ようこそHybridian の世界へ！		講義時間	50分を基本としていますが、何分でも構いません。
		受講人数	上限40人
Hybridianとは「支援技術を自分の生活能力の1つとして取り込んだ人々」を意味する造語です。携帯電話・パソコン・デジカメなどを生活の中で活用していれば、あなたも立派なHybridian。こうした技術を活用すると、障がいのある人達も障がいのない人達と同様の生活を送ることができます。障がい疑似体験を通して障がい児者の生活を共感的に理解するとともに、その生活を支援する技術・環境について紹介します。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン、その他、グループワーク用教材として空ペットボトル等をご用意いただく場合もありますので、事前に相談させていただきます。			

No. 42

〔講義テーマ〕／担当教員 特別支援教育 榎木 暢子		講義時間／受講人数	
重い障害を生きるということー全身性障害の高校生の進路ー		講義時間	50分
		受講人数	上限40人
「小さい時から絵を描くのが好きでイラストレーターになりたかった。高校で同じように絵が好き先輩と出会い、美術専門学校への進学を決めた。ひとつ違うのは、人工呼吸器を使っていて寝たきりと言うこと。」 Aさんの引きこもりがちだった中学校時代から今までの生活を通して、自分らしく生きることについて考えます。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 43

【講義テーマ】／担当教員 特別支援教育 中野 広輔		講義時間／受講人数	
特別支援教育は“特別”じゃない？ 障がい理解から自分理解へ		講義時間	50分
		受講人数	制限なし
特別支援教育は「個」別支援教育。特定の人のためだけの教育ではありません。 「どんな時間帯でも遅刻する」「忘れ物を繰り返してしまう」「整理整頓できない」「散らかっていたら手につかない」・・・他人事ではないでしょう？この授業では、医学的な知見に基づく障がいの特徴を理解しながら、自分の強みと課題を認識して対処する重要性についてお話します。			
□実施校において準備が必要なもの			
プロジェクター、スクリーン			

No. 44

【講義テーマ】／担当教員 教育学部教員（教育学部入試委員会）		講義時間／受講人数	
教育学部の教員と相談して決めるテーマ	講義時間	50分	
	受講人数	上限50人	
教育学部には、教育学、教育心理学、幼児教育、各教科教育（文系・理系・芸体系）、特別支援教育（障害児教育）など幅広い専門の教員がいます。ご希望の内容、日時など高校の先生方と協議させていただき、適切な教員を講師としてご紹介させていただきます。 まずは、ご希望のテーマ、内容等をお知らせくださいますようお願いいたします。			
<input type="checkbox"/> 実施校において準備が必要なもの			
内容・教員によって異なりますので、事前にご相談させていただきます。			